

自作農級出雲流庭園の維持管理 【庭園文化研究分科会】

小村 徹（建設部門）

1. 一般的な農家の出雲流庭園

昨年まで当研究分科会で対象としてきた出雲流庭園は、斐川の江角邸をはじめいわゆる豪農と呼ばれる屋敷や寺院が中心であった。これらの庭園の多くは、広く豪華であるため見栄えがする。一方で豪農ではない地主や自作農の間でも、出雲流庭園というべきかあるいは「出雲流擬きの庭」と言った方が正解なのかもしれない庭が多数存在している。本年はこのような地主や自作農の庭を中心に、現在生活がなされている庭園を見て回ることができた。このような庭を見てきた中で、筆者が住んでいる 0 家の小庭を紹介し、維持管理にどの程度労力をかけているかについて述べていきたい。

2. 0 家小庭の歴史

0 家の小庭（昔からコニワと呼んでいる）は、東西 13m、南北 8m の約 100m²あり、枯山水式のいわゆる出雲流庭園擬きの庭である。飛び石や籠台、灯籠、真松など出雲流の特徴となるアイテムは見られるが、出雲流の特徴とされている短冊石だけが見当たらないのが特徴？の庭である。利用目的は専ら眺めるだけのものであり、維持管理以外で立ち入ることではない。

0 家は出雲市斐川町の中央部にあり、西暦 1800 年頃に分家（出雲地方ではイモツチェという）したらしく、現建物は西暦 1895 年（明治 28 年）築と聞いている。庭については戦前からあったと聞いているが、いつごろ誰が作庭したかについては不明である。現在の庭は戦時体制の影響を受け一時撤去されていたため、昭和 20 年頃にほぼ撤去前の状態に復旧されたものと聞いている。



Photo 1 0 家小庭の全景

庭の作りや庭木は、筆者の記憶のある 30 年ほどの間では変更されていない。我が家の記録写真をたどっていくと、昭和 40 年 8 月に真松の植え替えが記録されている。実は平成 23 年秋にこの真松が枯れているため、この真松は 46 年間の寿命であったことがわかっている。このほかに最近ではモッコクが枯れて更新するなど庭の風景は変わっていないようであるが、数十年のオーダーでは庭木は更新されたり、家主の要望で灯籠が追加されたりなど小規模な改変はなされているようである。



Photo 3 昭和 39 年 5 月の状況

3. 庭の維持管理

(1) 作業項目

0 家では小庭や築地松を含め、概ね以下のような維持管理を行ってきた。

- ・ 築地松の剪定（概ね 4 年に 1 回）や更新（松枯れによるもの）
- ・ 庭木の剪定（松は年 2 回、その他は年 1 回）
- ・ 庭木の植え替え（枯れた場合などで 10 年に 1 回程度）
- ・ 清掃（除草、落ち葉清掃等）

その他に、生け垣の剪定や庭砂の更新などを適宜行ってきた。

これらの維持管理作業の内、専門性の高い築地松の剪定、庭木の剪定、庭木の植え替えについて庭師、陰手刈師に依頼している。その他の作業については、原則として家内で行うようにしている。

(2) 作業時期

維持管理の時期は、陰手刈師が春から秋にかけて数回、家内で行なう作業は主に清掃となるが冬の積雪期を除く年中ということとなる。ただし、清掃は週 1 回程度簡易に行い、盆や主要な行事前などに限定して見栄えを良くしていることが多い。



Photo 3 昭和 40 年 8 月の状況 真松を更新

(3) 述べ作業日数

近年の年間述べ作業日数は概ね以下のような状況である。

- ・ 庭師、陰手刈師依頼分
庭木の剪定 5 日、生垣の剪定 2 日
- ・ 家内作業分
生垣の剪定 2 日、除草・落ち葉清掃 0.1 日
×50 回=5 日、屋敷周り等草刈り 0.3 日×10 回=3 日



Photo 4 現在の維持管理 清掃状況（作業者は筆者）

(4) 維持管理費用

- ・ 庭木、生垣の剪定 100 千円
- ・ 家内作業分人件費（時給 1.5 千円で換算） 120 千円
- ・ 家内作業分経費（機械、工具、燃料等） 40 千円
- ・ 庭木入れ替え、築地松管理（1 年換算） 30 千円

小庭、屋敷周りの生垣等に必要な維持管理費は、年間で 290 千円かかっている状況である。

このほかに、築地松など特別な木に対する手当が必要な場合には、相当な費用が必要となる場合がある。

4. 維持管理のオモシロさ

庭を所有しているものとしては、当然ながら維持管理のわずらわしさを感じる事が多分にある。そのような中でも、自ら維持管理をするようになってきたのは、手入れがなされていない庭の見苦しきの解消が発端であった。しかし、作業を行うに従い次第に手入れをしたことによる達成感で心の豊かさを感じることができるようになり、現在では忙しい時、ゆとりのない時にこそ手入れをしたくなるのが実情である。いわゆる趣味の世界であろう。筆者にとって時間と財力に余裕がある身ではないが、庭の手入れにオモシロさを感じるようになってきている。これが歳を重ねたことによるものなのか、あるいは心の豊かさを求めた末の結果なのかはわからないが、少なくとも誰かに見せるために手入れをしているのではないから、単なる見栄ではないことは立証できていると思う。

5. 維持管理の課題

比較的庶民的な庭を維持していくにも、それなりの費用が掛かることがお分かりいただけたと思う。当然ながらどの程度の状態で維持していくかにより、手間や費用のかけ方が変わってくると考えられるが、出雲地方の見栄と横並びの文化が程よい庭の状態を維持できていたことが想像できる。しかし、築地松や出雲流庭園の維持に理解を示さない家主の声を聞く機会が増えており、近い将来には出雲流の風景というのは、さらに変貌していくことが容易に予測できる。これらは、現代の多様な価値観や文化により出雲地方の独創性が次第に薄れてきたものと考えているが、現代で生きていくためにはやむを得ないことかもしれない。改めてこのような状態があるから、出雲文化伝承館や旧豪農屋敷（江角家）が必要であること

が認識できた。

ちなみに、我が家の維持管理の方針は、趣味的な要素があるうちは維持管理を継続すると考えている。しかし、現段階では家ができた（庭ができた）時代の風景から一変し、国道やら電線やら店舗やら新たな住宅やらで、借景など無残な状況では庭の価値は底値を割っているといつてよい。ご先祖様には申し訳ないと思っているが、今の風景を見られたなら「やむを得んな」の一言でもありそうなものである。また、小庭といえども一般には贅沢品の一種であるため、今後は税の問題も含め、どこまで維持できるかは家計とモチベーションと相談していかなければ維持できそうにない。